様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	生活・健康系コース（家庭） ／金　貞均

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

教員としての高度な専門性と教育実践力を身につけさせるため、これまで専門領域の理論（住居学）と実践（住教育）を関連付け、実践を通した理論の検証・深化と理論に基づいた教育実践力の向上といった両者の統合を意識した授業を行ってきた。本年度においてもこの方針を堅持しながら次の授業計画を立て、取り組んでいきたい。
1．授業方法
①専門領域の基礎学力や応用力を身に付けさせるために予習・復習を徹底させるとともに、課題発見・課題探究・課題解決型の授業方法を取り入れる。
②確かな専門知識に基づいた教材開発、授業研究および授業実践を工夫する。
③コミュニケーション能力を培うために課題発表（プレゼンテーション、聞く）と討議（話す、聞く、議論しあう）形式の授業を多く取り入れる。
2．成績評価
課題と発表、筆記試験、出席状況等により授業科目の到達目標への達成度を総合評価する。

2．点検・評価

教員としての高度な専門性と教育実践力を身につけさせるため、専門領域の理論（住居学）と実践（住教育）を関連付け、実践を通した理論の検証・深化と理論に基づいた教育実践力の向上といった両者の統合を意識した授業を目指した。そのため具体的に以下の授業方法を用いて実践した。
1．授業方法
①専門領域の基礎学力や応用力を身に付けさせるために予習・復習を徹底させるとともに、課題発見・課題探究・課題解決型の授業方法を取り入れた（住居学概論、住居設計・製図）。
②確かな専門知識に基づいた教材開発、授業研究および授業実践を工夫した（中等家庭科教材論）。
③コミュニケーション能力を培うために課題発表（プレゼンテーション、聞く）と討議（話す、聞く、議論しあう）形式の授業を取り入れた（住生活学、住生活学研究）。
2．成績評価
課題と発表、筆記試験、出席状況等、多様な尺度を用いて授業科目の到達目標への達成度を総合評価した。
以上の授業実践の結果、各授業に対する受講生の自己評価および総合評価が高く、期待する授業成果を上げることができた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

1．キャリア教育の実施、オフィスアワーの積極的な活用により学生の教育活動を支援する。
2．学生の進路や悩み等の相談に随時応じ、大学生活を支援する。
3．授業やゼミを通して教員採用試験の対策指導（専門と小論文、面接等）を行う。
4．本学の留学生らの教育・生活相談に応じ、留学生活を支援する。

２. 点検・評価

1. 初等・中等教育実践基礎演習の授業においてキャリア教育を実施し、全授業科目におけるオフィスアワーの積極的な活用により学生の教育活動（課題相談・発表等）を支援した。
2. 学生の進路や悩み等の相談に随時応じ、大学生活を支援した（特に院生１名、学部生1名）。
3. 授業やゼミを通して教員採用試験の対策指導（プレゼンテーションの仕方、小論文作成等）を行い、ゼミ生が兵庫県小学校教員採用試験に合格した。
4. 韓国の留学生の教育・生活相談に応じ、留学生活を支援した。

Ⅱ－２. 研究

１. 目標・計画

1. 科学研究費補助金の獲得のため研究課題の洗練化をはかるとともに、独創的で先駆的な研究計画書の作成を工夫し、外部資金の調達に努力する。
2. 研究成果をまとめ関係学会誌等に投稿する。
3. 「四国住教育研究会」における住教育実践研究活動を行う。

２. 点検・評価

1. 科学研究費補助金の獲得のため研究課題の洗練化をはかるとともに、独創的で先駆的な研究計画書の作成を工夫した結果、平成23年度から3年間の外部資金を獲得した（研究課題：日本の
近代住宅が韓国の伝統住宅の変容に及ぼした影響）。
2. 研究成果をまとめ関係学会誌等に投稿するため原稿を執筆した（2本）。そのうち一本は四国住教育研究報告集第9号に投稿し掲載された。しかし、もう1本は最終検討の段階でデータの誤りが見付かり、
修正が余儀なくされ、投稿は見合わせられた。完成次第、韓国の住居学会に投稿する。
3. 「四国住教育研究会」における住教育実践研究活動として、今年度は本学を会場に「第5回四国住まい・まち環境教育研修会」を企画した（12月10日13：00−17：30、対象：徳島県家庭科教員）。
当日徳島県内の現職教員や大学生ら16人の参加者を得て研修会を行った。研修会では講演・教材解説・実技研修等を通してこれまでの研究・教材開発成果の一端を現場に還元することができた。

Ⅱ－３. 大学運営

１. 目標・計画

1. コース長としてコース運営に寄与する。
2. 国際交流委員会委員、人権教育推進委員会委員、創立30周年記念事業委員会委員として、本学の運営に貢献する。

２. 点検・評価

1. コース長としてコース会議を主宰し、各種伝達事項や議決事項をまとめコース運営に寄与した。
2. 国際交流委員会委員、人権教育推進委員会委員、創立30周年記念事業委員会委員として、本学の運営に貢献した。
特に、国際交流委員会委員として10月22日、日本文化体験行事（香川）に留学生21名を引率した。また人権教育推進委員会委員として12月21日開催の人権教育推進講演会を企画した。
なお、創立30周年記念事業委員会委員として行事の準備に関わった。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校の授業研究・教育実習等に積極的に参加し、教科の教育研究活動を支援する。
2. 社会との連携を図るためNPO法人活動を行うとともに、自治体の各種審議会において地域社会に必要な専門的な提言を行う。
3. 韓国からの研究者の研究活動等を支援するとともに共同研究を行う。
4. 本学に留学を希望する韓国の学生らに大学院の入試情報を発信する。

2. 点検・評価

1. 附属学校の授業研究・教育実習等に積極的に参加し、教科の教育研究活動を支援した。なお今年度第55回附属中学校教育研究発表会の研究紀要に「思考力をはぐくむ家庭科授業の創造」を寄稿した。
2. 社会との連携を図るためNPO法人阿波グローカルネットの研修会に参加し意見を交わすとともに、自治体の各種審議会（徳島県総合計画審議会、鳴門市環境審議会）に委員として関わり、
　地域社会に必要な専門的な提言を行った。なお、徳島県建築士会鳴門支部の依頼で第2回鳴門市ユニバーサルデザイン点検会にコースの学生の参加を促し、2名が参加した。
3. 昨年に引き続き、韓国の研究者（全南大学校工学大学建築学科パク　チャン教授）と共同研究を行い、研究成果をまとめた（研究テーマ：現代日本住宅の平面特性に関する研究）。
　なお、本年度から科学研究費が採択され、海外共同研究者と韓国調査研究をスタートさせた。
4. 平成24年2月2日、韓国慶南大学校師範大学家庭科との懇談会の際、韓国の学生らに大学院の紹介とともに入試情報を発信した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

次の行事等を通して本学の国際交流に貢献した。
①平成23年6月10日−13日、韓国ソウル教育大学校で開催された「第6回東アジア教員養成機関国際学術大会」に参加。学長会議への代理出席および分科会に参加した。
②平成23年10月9日−11日、韓国釜山で開催された「第4回日韓教育大学長懇談会」に参加。フォーラム資料として本大学の紹介資料を韓国語で翻訳したほか当日のフォーラム等に
　参加した。
③平成24年2月2日、韓国慶南大学校師範大学家庭科と本コースの教員・学生との懇談会を主宰し、附属中学校授業視察等を世話した。
④平成24年2月20日、韓国京仁教育大学校附属小学校の訪問団（教員5名）を世話し、附属小学校視察を支援した。